

新潟青陵学会 第17回 学術集会



自身の体験談と 団体活動を通し見えた ピアサポーターとしての課題と使命



新潟市を拠点に
傾聴を中心に活動するダブルケア団体
歩み寄りの会 代表 車谷道子



私の年齢	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
私の仕事	正社員	結婚退職	無職	パート10～16時	パート午前	義母の通院付添と療育付添に伴い退職	無職	在宅パート時間制限なし	パート10～14時			
私の持病									パニック障害			
ダブルケア団体										団体設立	活動	

息子の年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
状況			保育園入園	自閉症診断・療育開始	支援級・療育					

祖父年齢	85	86	87	88
状況	緩やかな認知症状	不穏・せん妄	大動脈瘤破裂・入院	
介護度	要支援2	要介護2	要支援2	

義父年齢	72	73	74	75	76	77
状況	前立腺がん				肺気腫	自立不可
介護度	介護度なし					要介護3

義母年齢	70	71	72	73	74	75	76	77	78
状況	糖尿病								2月異変・3月S字結腸癌・4月認知症・5月腹水・入院
介護度						要支援1	要支援1→4月要介護3		

祖母年齢	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97
状況								難聴・歩きにくさ				
介護度	要支援1	要支援2			要介護1			要介護2				

父年齢	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
状況									仕事退職	腰曲がる	初期認知症傾向	

母年齢	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
状況										腰曲がる	初期認知症傾向	

私の年齢	41	42	43	44	45
私の仕事	パート午前	義母の通院付添と療育付添に伴い退職	無職	在宅パート	パート
私の持病		パニック障害			
ダブルケア団体			団体設立	活動	

息子の年齢	5	6	7	8	9
状況	自閉症診断 療育開始	小学校入学・支援級・放課後デイサービス			

義母年齢	77	78
状況		2月異変・3月S字結腸癌 4月認知症・5月腹水・入院
介護度		要支援1→4月要介護3

誰にも言えない
 言っても
 わかってもらえない
 役所の窓口・複数で同じことを
 言わなければならない
 → 強い孤独感

情報の提供・共感共鳴で孤立化を防ぐため 団体の設立・ダブルケアカフェ開催 約5年の記録

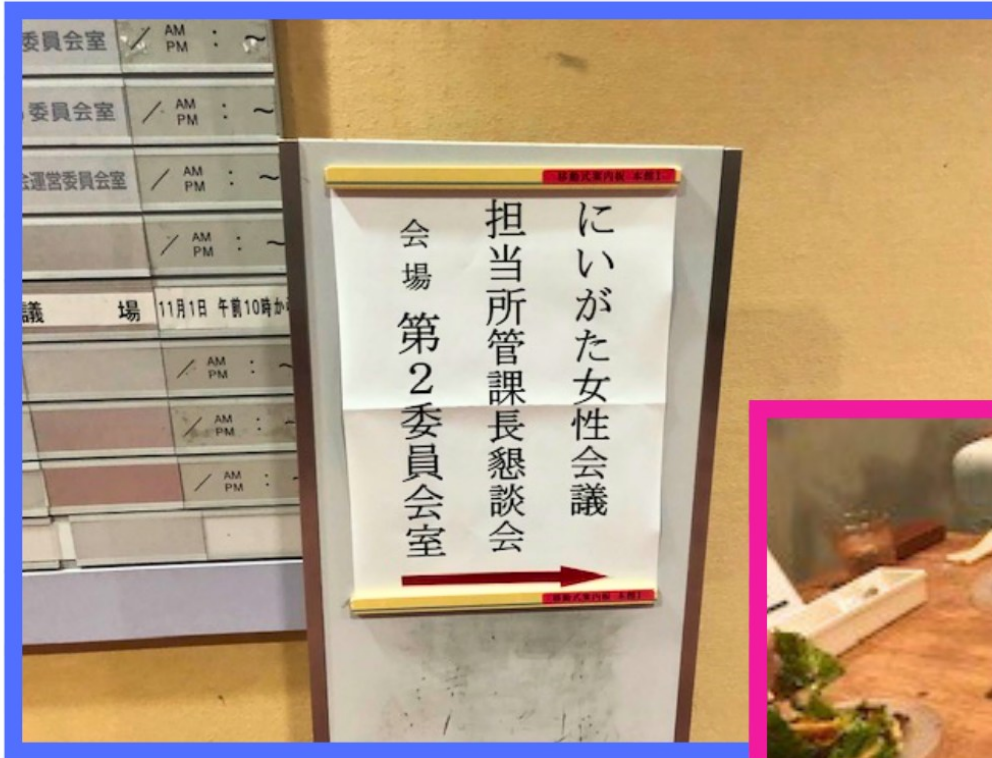


2021年11月 歩み寄りの会 発足

2021年12月～

坂井輪地区公民館でカフェ開催

→ウィルス禍の影響・アウトリーチの問題もあり、参加者0人続く



2021年12月～
新潟市男女共同参画推進センター
にいがた女性会議 介護自立部会
の会員となり
新潟市へ
ダブルケア窓口一本化の提言 開始

2022年8月～2023年5月
新潟市の結婚相談所との
コラボ企画
両親の介護により
結婚に不安がある未婚女性達
とのカフェ・ディナー会（計5回）



2023年6月～
団体ホームページ作成

2024年5月～
新潟市市民活動支援センター
ニコットの活動団体に



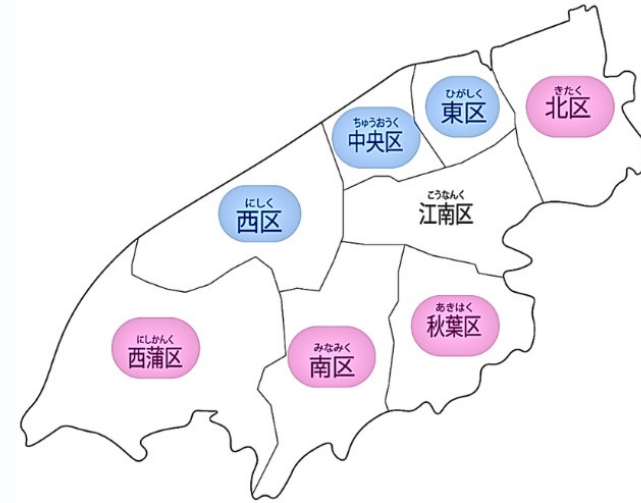
2024年2月～
坂井輪地区公民館にて
新潟県で初となる
ダブルケアパネル展開催

【区別男女別年齢別人口】

令和5年12月最新版
新潟市総務部総務課 発表

区名 / (%)	0～14歳	15～64歳	65歳以上
北	10.9	56.4	32.5
東	11.3	58.7	29.9
中央	10.9	61.5	27.5
江南	12.4	57.3	30.1
秋葉	11.5	55.8	32.6
南	11.1	56.8	31.9
西	11.9	57.9	30.1
西蒲	9.8	54.3	35.8

働き世代多め	東・中央・西
高齢世代多め	北・秋葉・南・西蒲

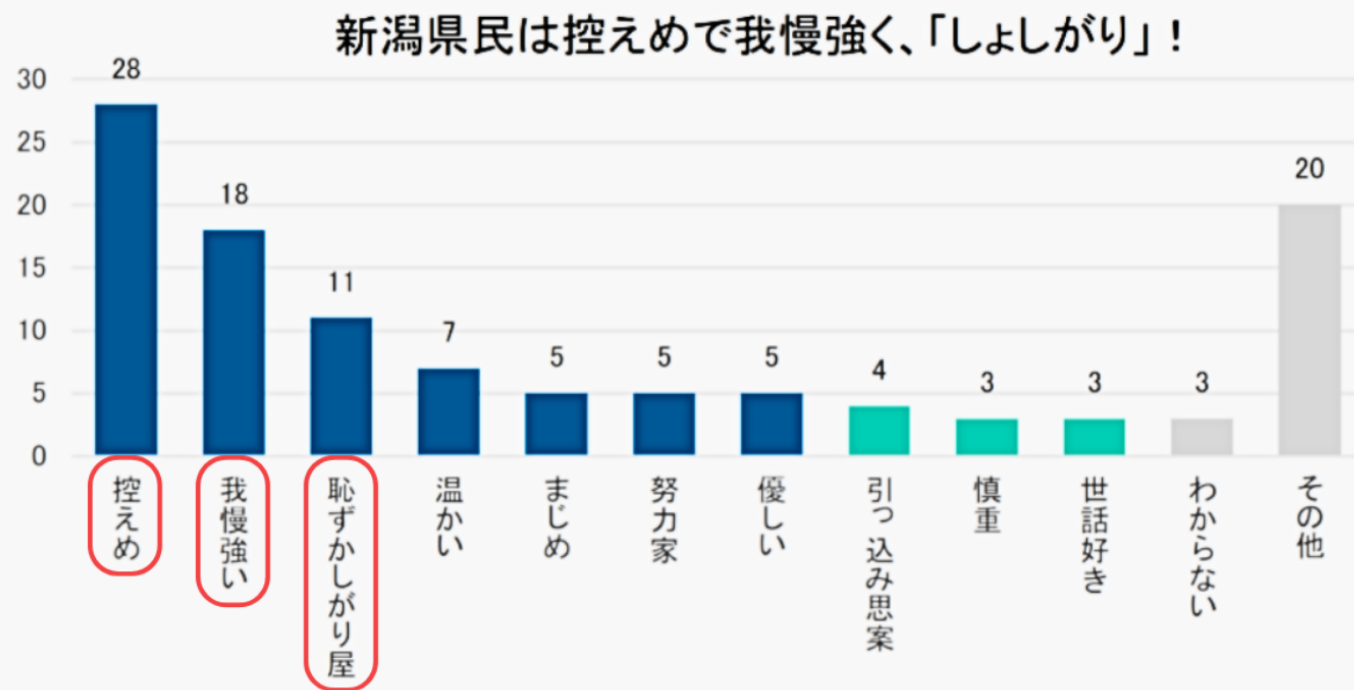


同じ市内と言えども
地域によって違いあり

高齢化が進む地域への
アウトリーチ強化や
カフェ・展示開催等
検討必要



Q. 新潟の県民性をひと言でいい表すと？



調査元：新潟コメジルシ総研

調査対象：新潟県内在住及び新潟県出身者 10代～60代計100名（有効回答数）

調査期間：2021.7.19～8.17 調査方法：インターネットアンケート

**控えめで我慢強く、恥ずかしがり屋な県民性・市民性へ
諦めることなくアプローチし続ける こちらの「我慢強さ」の挑戦**

活動する上での今後の課題点

1.ピアサポーターによる活動の難しさ

現役ダブルケアラーのため、家族のケアに変化があると、活動に制限が

2.アウトリーチの問題

官が主体となって、ダブルケアの推進に尽力してもらう必要あり
行政に頼らず、こちらが必要と思うことをしていく行動力や決断力がより重要

3.ダブルケアカフェの参加数＝支援が必要な人 ではない

ダブルケアカフェに参加できる人の特徴

家族のケアの状況が軽症
ケアが落ち着いた方

本当に支援が必要とする人の特徴

時間ややるべきことに縛られ、外に出ていく余裕がない
うつ傾向の場合の方も多く、人と接しようとは思えない
「個人的な事情をシェアする」必要性を感じない